

土木会会報

Vol.17 2019. 12



防衛大学校土木会



巻 頭 言

～ 令和元年 ～

会 長 山崎 幸二

防衛大学校土木会の皆様におかれましては、益々、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年、我が国にとり大きな節目の年となりました。皇位継承に先立ち、4月1日に新元号「令和」が発表されました。日本最古の和歌集「万葉集」の歌「初春の令月（れいげつ）にして、気淑（よ）く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香を薫す」から引用された「令和」に心からの感動を覚えました。天皇陛下がご即位した5月1日には「剣璽等承継の儀」等が行われ、10月22日には「即位礼正殿の儀」でご即位を国内外に宣明されました。引き続き行われた「饗宴の儀」、「国民祭典」「祝賀御列の儀」等を通じ、日本の悠久の歴史と伝統・文化、そして日本人としての誇りと一体感を感じました。今では、「令和」が日常生活に溶け込み、新しい時代が始まったことを肌で感じています。

我が国の安全保障の分野においても、新たな時代が到来しました。昨年末に策定された「防衛計画の大綱」に基づき、格段に厳しさと不確実性を増す我が国を取り巻く安全保障環境に正面から向き合うため、「多次元統合防衛力」の構築に着手しました。従来の陸・海・空の領域に、新たな領域である宇宙・サイバー・電磁波を加え、全ての領域を有機的に融合させ「領域横断作戦」を実現する防衛力です。「令和」の時代にふさわしい防衛態勢を構築していきたいと考えています。

一方、台風19号などによる暴風や豪雨が甚大な被害をもたらしました。関東及び東北地方等の各地で河川堤防が決壊し、道路・橋梁・電気及び水道施設等が破壊され、我々の平和な日常の暮らしは、「土木」の技術と先人のたゆまぬ努力と叡智で支えられていることを痛感した瞬間でした。今後、国として取り組む国土強靱化施策の中において、「土木」の重要性が更に増してくるものと確信しています。

希望に満ち溢れた「令和」の時代において、会員の皆様が、更にご発展されることを心より祈念申し上げます。

(統合幕僚長)

目 次

学科長挨拶	1
土木会ニュース	5
・建設環境工学科学生の受賞・学位取得について	5
・平成30・令和元年度土木会総会について	6
・学科の現況について	8
事務局より	9
「防衛大学校土木会」の歩み	11
期別便り	14
決算報告（平成29・30年度）	31
防衛大学校土木会会則	32
役員等名簿	35

[表紙の写真]

上左：理工学5号館の外観 上右：理工学5号館の教場
下左：新理工学館の教場 下右：新理工学館の外観



システム工学群 建設環境工学科

学科長 宮田 喜壽

防衛大学校土木会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。皆様には平素より建設環境工学科の運営に関して格別のご支援を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。また、今期で会員数が二千名を超えられたとのこと。これまで貴会を築き上げられてきた多くの方々のご尽力に心より敬意を払わせていただきます。

さて、建設環境工学科は、現在、八講座（構造力学、建設材料工学、設計工学、環境防災工学、国土環境工学、地盤工学、水工学、大規模震災工学）により教育・研究に当たっております。

教官陣では、平成31年3月に正垣教授（地盤工学）が退官されました。学科の発展にご尽力された正垣先生が学科を去られ寂しい限りであります。

一方で、新しい優秀な先生を本学科にお迎えすることができました。令和元年10月に松崎先生が東北大学より講師（大規模震災工学）として着任されております。また、平成31年4月に黒田先生が教授、野々山先生が講師に昇任されております。

現在の教官布陣は下表のようになっており、本科：四学年28名、三学年27名、二学年32名の合計87名 および研究科：前期（修士）6名、後期（博士）5名の合計11名の教育・研究に当たっております。学科の活動では、学生教育と研究とをうまく連携させて進めることが極めて重要です。そのためには、研究科の学生数を一定数確保する必要があります。この点に関して、皆様のさらなるご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

防衛大学校では、キャンパスのリニューアルが行われております。このたび、学生舎の全面リニューアル、食堂棟および浴場の完成に続き、建設環境工学科を含むシステム工学

建設環境工学科の教官配置

本科講座	構造力学	建設材料工学	設計工学	環境防災工学	国土環境工学	地盤工学	水工学	大規模震災工学
教授	香月	黒田	別府	藤掛		宮田	八木	矢代
准教授	堀口		市野		篠田		多田 嶋原	
講師					野々山			松崎
助教						宮本		

群の四学科（建設以外は機械工学科、機械システム工学科、航空宇宙工学科）が入る新理工学館が完成しました。鉄筋コンクリート造五階建て、建設環境工学科は最上階の五階に入りました。文末に写真を示させていただきます。学校に足が大分遠のかれた方もいらっしゃると思います。これを機会に是非、学科の方にお越しいただければ幸いです。

土木会は、昭和・平成・令和と受け継がれてきました。平成最後の卒研発表のテーマを以下に示させていただきます。皆様が防大で行った研究・研修テーマと比べていかがでしょうか。土木としての本質は変わらないのですが、時代や社会のニーズの変化のもと、内容も少しずつ変わってきています。この中に、土木の不易流行の趣旨を感じていただけますと幸いです。

広範囲な動水勾配条件における礫質土の透水性評価に関する研究
高速載荷可能な三軸圧縮試験装置の開発と砂質地盤材料の高速時強度特性に関する基礎的研究
透明土を用いた杭の水平抵抗メカニズムに関する研究
逆 T 型基礎の引揚支持力に関する研究
二次元振動台の導入と地震動の位相特性が地盤構造物の応答特性に及ぼす影響に関する研究
ジオセルによる地盤補強効果に関する室内および実大実験
粘性土に打設された基礎体周辺土の強度・変形特性
Strength properties of construction materials at historical civil engineering heritage sites built since the Meiji era
三重津海軍所ドライドック遺構の地盤工学的分析
火山噴火による住民避難計画策定に関する研究
地震規模が救助部隊運用に及ぼす影響に関する研究
地震発生時の救助活動への航空機運用に関する研究
火砕流を受ける鋼製砂防堰堤の構造耐力変化に関する考察
回転円筒装置による分級実験への底面粗度の影響
接触爆発を受ける RC 版の裏面剥離に鉄筋パラメータが与える影響に関する研究
超高強度繊維補強コンクリートの動的力学特性に関する研究
柔飛翔体の衝突を受ける鋼板の貫通破壊に関する研究
ハニカム複合構造の耐爆緩衝性能に関する研究
衝撃疲労によるコンクリートの表面損傷に及ぼす衝撃荷重条件の影響と樹脂被覆による保護効果
腐食鉄筋を部分的に交換した RC 梁部材の曲げ耐荷性状
鉄塔支線ケーブル素線の疲労対策に関する基礎研究
拘束圧が RC 版の押抜きせん断耐力に及ぼす影響に関する研究
ゴムチップ混入モルタルの衝撃緩衝特性に関する研究
人工衛星を用いた日本沿岸における海水の光学特性に関する研究
海面熱フラックスが東京湾の表層水温に与える影響に関する研究
エネルギー線法による遡上解析の適用範囲に関する研究
エネルギー線法による遡上限界の逆推定
三浦半島・鎌倉の津波人的被害と救助活動能力に関する研究
構造物背後の津波避難施設に作用する津波波圧に関する実験的研究

学科といたしましては、新理工学館移転を機に、教育・研究内容もより充実したものにしていきたいと考えております。今後も、土木会の会員の皆様方の変わらずのご指導、ご支援とご協力を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様の益々のご健勝を祈念致します。



新理工学館 全景（左奥がこれまで使用してきた五号館）



共有スペース（ファカルティエリア）における展示コーナー



製図室



新理工学館から東京湾を臨む

建設環境工学科学生の受賞・学位取得について

1. 学会等における受賞

平成 29 年 12 月から令和元年 12 月までに、6 件の論文や研究発表が表彰されました。特に毎年 3 月に開催される土木学会関東支部研究発表会には、研究科学生だけでなく本科学生も積極的に参加しており、一般大学の学生や企業の方々と同じ会場で 1 年間の研究成果を発表しております。その中で平成 29 年度（第 45 回）においては本科 62 期の内山諒史氏及び理工学研究科後期課程第 17 期の片岡新之介氏が優秀発表者賞を受賞しました。

2. 学位の状況

平成 30 年 3 月には、研究科後期課程第 16 期の上野裕稔氏（本科第 52 期）および同課程第 16 期の永田真氏（防衛省研修生）が卒業し、研究科後期課程設立後、防衛大学校建設環境工学（旧：土木工学）科から輩出した学位取得者は合計 13 名となりました。また、現在国内大学研修生として、横浜国立大学に博士課程学生の喜納啓氏（本科第 58 期）が在学しています。

本科・研究科学生の受賞（平成 29 年 12 月～令和元年 12 月現在）

受賞者	受賞内容	研究題目	受賞時期
後期課程 片岡 新之介	第 18 回コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム優秀論文賞	飛来物衝突を受ける超高強度繊維補強コンクリートパネルの耐衝撃性に関する考察	H30.10
後期課程 片岡 新之介	第45回土木学会関東支部技術研究発表会優秀発表者賞	柔飛翔体の衝突を受ける鉄筋コンクリート版の破壊メカニズムに関する検討	H30.5
後期課程 小松 喜治	構造工学シンポジウム優秀講演賞	前置減勢工による土石流衝撃荷重低減効果に関する実験	R1.6
後期課程 濱田 匠李	構造工学シンポジウム優秀講演賞	半球状飛来物の衝突を受ける鋼板の貫通破壊に関する研究	R1.6
前期課程 松村 健太郎	平成 30 年度全国大会第 73 回年次学術講演会・優秀講演者賞	回転円筒装置による水・砂・流木の分離形態の検討	H30.12
本科 内山 諒史	第45回土木学会関東支部技術研究発表会優秀発表者賞	火山避難に関する基礎的研究－大分県 鶴見岳を例として－	H30.5

平成30・令和元年度土木会総会・講演会及び懇親会について

1. 概要

平成30年6月21日（木）、アルカディア市ヶ谷にて平成30年度防衛大学校土木会総会及び懇親会が実施されました。また、令和元年6月14日（金）、グランドヒル市ヶ谷にて令和元年度防衛大学校土木会総会・講演会及び懇親会が実施されました。各会は、土木会会長を初め70名以上の土木会会員の皆様により盛大に実施されました。令和元年は、役員交代の年でありましたが、前々年度に引き続き、会長に山崎幸二様（本科27期生）、副会長に岸川公彦様（本科28期生）、日比野忠史様（本科28期生）が就任され、新会計監事は正寶太郎様（本科58期生）が就任されました。

2. 講演会

令和元年度の講演会では防衛大学校長の國分良成様より「中国をめぐる内外情勢一日米中関係を中心に」という題目でご講演を頂きました。現代中国の歴史的な背景、それが日本及び米国に及ぼす影響について専門的な知見からご講演して頂きました。



令和元年度講師 國分 良成 様



講演会

3. 懇親会

懇親会では、宮田喜壽学科長の学校紹介や、会長である山崎幸二様（本科27期生）よりご挨拶を頂きました。また、最後には全員で肩を組んで学生歌を斉唱し土木会会員の絆をより深めました。



日比野先生文部科学大臣受賞お祝いの集合写真



山崎会長のご挨拶



懇親会風景



万歳三唱

H30 年度 土木会懇親会



国分学校長との記念集合写真



宮田学科長による学科紹介



重村様 (本科 6 期生)



学生歌斉唱

令和元年度 土木会懇親会

学科の現況について

建設環境工学科では、平成 29 年 12 月以降令和元年 12 月までの間において、黒田一郎教授、堀口俊行准教授、野々山講師が昇任されました。また、新しく令和元年から松崎裕講師が着任されました。建設環境工学科の教員の現況および学生の現況については、下記のとおりです。

1. 建設環境工学科教員の現況

氏名および職位	専門分野（期別）	氏名および職位	専門分野（期別）
香月 智 教授	構造力学（23 期）	篠田 昌弘 准教授	国土環境工学
藤掛 一典 教授	環境防災工学	嶋原 良典 准教授	水工学
矢代 晴実 教授	大規模震災工学	市野 宏嘉 准教授	設計工学（46 期）
宮田 喜壽 教授	地盤工学	堀口 俊行 准教授	構造力学（50 期）
八木 宏 教授	水工学	野々山栄人 講師	国土環境工学
別府万寿博 教授	設計工学（36 期）	松崎 裕 講師	大規模震災工学
黒田 一郎 教授	建設材料工学	宮本慎太郎 助教	地盤工学
多田 毅 准教授	水工学		

2. 建設環境工学科学生の現況

（1）本科

第 4 学年（64 期）	28 名（陸 25、海 1、空 2）
第 3 学年（65 期）	27 名（陸 24、海 2、空 1）
第 2 学年（66 期）	32 名（陸 27、海 3、空 2）

（2）研究科

後期課程	第 3 学年（17 期）	1 名（陸 1）
	第 2 学年（18 期）	2 名（部外 2）
	第 1 学年（19 期）	2 名（陸 1、空 1）
前期課程	第 2 学年（57 期）	3 名（陸 3）
	第 1 学年（58 期）	4 名（陸 3、海 1）

事務局より

防衛大学校土木会の皆様には、日々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、防衛大学校土木会も、昭和 61 年に発足して以来、皆様の暖かいご支援とご協力により、第 17 号の会報を発刊するまでに至りました。また、防衛大学校も本科第 67 期生が入校し、土木会会員も総数 2,034 名となりました。

会員の増加と郵便料金の値上げ等に伴い、近年、防衛大学校土木会の財務状況が厳しさを増しており、持続的な会の運営が困難となってまいりました。そこで、より一層の経費節減のため、会報の発行・配布の要領、会員名簿作成のための調査の要領を変更することにいたしました。なお、本件につきましては、各期幹事に対してアンケートを行い過半数の賛成をいただいた上で、令和元年防衛大学校土木会総会において承認されました。

1 会報の発行・配布の要領

冊子での会報の発行から、防衛大学校同窓会ホームページ内の防衛大学校土木会ホームページ上での会報の掲載に変更いたします。

(https://www.bodaidsk.com/community/tomo_kensetu/)

※ ホームページ上での会報の閲覧が難しい方は、事務局までご連絡ください。ご要望に応じて紙面にて冊子をお送りすることも可能です。

2 会員名簿作成のための調査の要領

例年、5 月頃にお送りする個人へのはがきで調査を行い、10 月頃に幹事の方々に調査をお願いしておりましたが、下記の通り変更いたします。

(1) 調査時期および回数

ア 退官期（基準：各期で最年少の方が調査年度に 57 歳を迎える期以上、令和元年度は、29 期以上の方が対象となります。）

5 月頃（年 1 回）

イ 現役期（アに該当しない期）

5 月頃及び 10 月頃（年 2 回）

(2) 毎年 5 月にお送りしている個人へのはがき（名簿記載事項および総会の出欠調査）は廃止します。

(3) (1)の時期に、期幹事の方々に同期の会員（技官の幹事の方は元技官研修生の会員、研究科の幹事の方は研究科卒業生の会員）の名簿記載情報の調査をお願いします。

(4) 総会・講演会および懇親会の出欠調査

毎年 5 月にお送りしている個人へのはがきが廃止されることに伴い、5 月の名簿調査にあわせ、総会の出欠調査を期幹事の方々にお願いいたします。

※ 土木会会員限定で会員名簿の送付を希望される方については、「会員名簿及び土木会会報（冊子）の申し込みについて」を確認の上、防衛大学校土木会事務局にお問い合わせください。

特に幹事の皆様には、これまでに増してご負担をおかけすることになりますが、なにとぞご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

～ご寄付について～

前号の会報発行から、本号の発行までの間に下記のとおりご寄付をいただきました。

ご 芳 名	口 数
國分 良成 様 (防衛大学校長)	6 口 (30,000 円)
石川 信隆 様 (4 期)	20 口 (100,000 円)
窪田 征八郎 様 (11 期)	1 口 (6,000 円)
角南 友希夫 様 (48 期)	1 口 (5,000 円)

通算 215 口 1,076,635 円
(一口 5,000 円)

深く御礼申し上げます。

なお、会の発足から今に至るまで、皆様から寄せられたご寄付は 215 口 1,076,635 円となりました。皆様のご厚志に心から感謝申し上げます。

今後も事務局員一同、土木会の一層の発展を目指して運営に努めたいと思います。変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。最後に、皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

事務局長 市野 宏嘉 (46 期)

『防衛大学校土木会』の歩み

昭 61.12.6	第1回総会・懇親会開催/市ヶ谷会館（東京） 初代会長 東 俊（1期）他役員選出 土木会会則の制定	
昭 62.11.10	会員名簿第1号発行	
昭 62.12.4	第2回総会・懇親会開催/市ヶ谷会館（東京）	（参加者 71名）
昭 63.12.2	第3回総会・懇親会開催/市ヶ谷会館（東京） 第2代会長 中尾 時久（1期）他役員選出 特別講演：志方俊之（2期） ワシントンから見た日本の防衛	（参加者 113名）
平 1.11.10	会員名簿第2号発行	
平 1.12.15	第4回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：隈元保雄（4期） 最近の中国事情とその背景	（参加者 83名）
平 2.5.18	第5回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：中谷 元（24期、衆議院議員） 最近の国内外情勢について	（参加者 93名）
平 3.6.14	第6回総会・懇親会開催/虎ノ門パストラル（東京） 第3代会長 坂本 良一（3期）他役員選出 特別講演：鷹部屋 亮平 元教授（防大） 防衛大学校の思い出	（参加者 98名）
平 3.12	会員名簿第3号発行	
平 4.6.12	第7回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：鈴木 宏（砂防・地すべり技術センター専務理事） 雲仙・普賢岳災害と危機管理	（参加者 97名）
平 5.6.12	第8回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 第4代会長 岸良 征（6期）他役員選出 特別講演：渡辺 隆（21期、第1次PKO施設大隊長） PKO活動に参加して	（参加者 95名）
平 5.12	会員名簿第4号発行	
平 6.6.12	第9回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：中溝 高好（防衛大学校副校長） これからの防衛大学校	（参加者 97名）
平 7.6.16	第10回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 第5代会長 若松 重英（7期）他役員選出 特別講演：茅原 郁生（6期、防衛研究所アジア地域担当室長） ポスト鄧小平の中国	（参加者 97名）
平 7.12	会員名簿第5号発行	
平 8.6.14	第11回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 特別講演：佐藤 勝巳（現代コリア研究所長） 緊張高まる朝鮮半島情勢	（参加者 82名）
平 9.6.13	第12回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京） 第6代会長 藤原 利將（9期）他役員選出 特別講演：赤石 勝（11期、東海大学教授） 地盤に関する最近の話題	（参加者 84名）
平 9.12	会員名簿第6号発行	
平 10.6.5	第13回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）	（参加者 78名）

	特別講演：池井 優（慶応義塾大学法学部教授） 野球監督に見るリーダー論
平 11.6.11	第 14 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 68 名） 第 7 代会長 洗 堯（11 期）他役員選出 特別講演：荻野 アンナ（慶応義塾大学文学部助教授） 3つの対話
平 11.12	土木会会報第 7 号発行
平 12.6.30	第 15 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 76 名） 特別講演：古屋 信明（防衛大学校建設環境工学科教授） 明石海峡大橋の技術について
平 13.6.11	第 16 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 101 名） 第 8 代会長 渡邊 元旦（14 期）他役員選出 特別講演：原 剛（防衛研究所戦史部調査員） 要塞を中心とした明治期日本の防衛構想
平 13.12	土木会会報第 8 号発行
平 14.6.14	第 17 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 73 名） 特別講演：西原 正（防衛大学校学校長） 最近の国際情勢と日本の安全
平 15.6.28	第 18 回総会・懇親会開催/防衛大学校（横須賀）（参加者 95 名） 第 9 代会長 得田 憲司（15 期）他役員選出 特別講演：中谷 元（衆議院議員） 任重く道遠し
平 15.12	土木会会報第 9 号発行
平 16.6.11	第 19 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 70 名） 特別講演：川口 有一郎（早稲田大学教授） 金融工学者の祖国への思い
平 17.6.17	第 20 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 78 名） 第 10 代会長 中村 信悟（17 期）他役員選出 特別講演：坂本 まゆみ（航空幕僚監部 法務課 法学博士） 国際法とテロリズム
平 18.3	土木会会報第 10 号発行
平 18.6.9	第 21 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 79 名） 特別講演：岡田奈緒子（精神科医/山野美容芸術短期大学講師） 社会生活における健康とストレス
平 19.6.17	第 22 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 72 名） 第 11 代会長 大西 正俊（18 期）他役員選出 特別講演：森 勉（前 陸上幕僚長） 陸上自衛隊の現状と将来の展望
平 20.1	土木会会報第 11 号発行
平 20.6.22	第 23 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 70 名） 特別講演：井上 宗迪（教授/デジタルハリウッド大学） 米国金融 愛国法 とは
平 21.6.19	第 24 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 70 名） 第 12 代会長 君塚 栄治（20 期）他役員選出 特別講演：笹 幸恵（ジャーナリスト） 玉砕の島をめぐる今思うこと
平 22.12	土木会会報第 12 号発行
平 22.6.18	第 25 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 67 名） 特別講演：岡田 奈緒子（准教授/山野美容芸術短期大学）

	ストレスに関連する症候群
平 23.6	第 26 回総会（書面会議） 第 13 代会長 林 一也（21 期）他役員選出
平 23.12	土木会会報第 13 号発行
平 24.6.15	第 26 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 68 名） 特別講演：大石 久和（特命教授/京都大学大学院経営管理研究部） 国土と日本人-なぜわれわれは安全保障理念を欠くのか-
平 25.6.15	第 27 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 61 名） 第 14 代会長 田邊 揮司良（24 期）他役員選出 特別講演：洗 堯（元東北方面総監） アジアの軍事戦略環境と知識戦略の展望 窪田征八郎氏（カンボジア能力構築支援教員） 工兵技術学習と P C の活用
平 25.12	土木会会報第 14 号発行
平 26.6.13	第 28 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 60 名） 特別講演：吉川 肇子（慶應義塾大学） リスク・コミュニケーションとは
平 27.6.12	第 29 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 66 名） 第 14 代会長 田邊 揮司良（24 期）再選他役員選出 特別講演：小島 海（RCF 復興支援チーム（元国際協力機構職員）） 復興支援の現場からー南スーダンから陸前高田へー
平 27.12	土木会会報第 15 号発行
平 28.6.10	第 30 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 64 名） 特別講演：泉 貴子（准教授/東北大学総災害科学国際研究所） 災害対応・復興への国際協力：国連の役割
平 29.6.16	第 31 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 66 名） 第 15 代会長 山崎 幸二（27 期）他役員選出 特別講演：溝口 郁夫（近現代史研究家） ビルマ独立を支えた野田毅参謀の南京での悲劇
平 29.12	土木会会報第 16 号発行
平 30.6.21	第 32 回総会・懇親会開催/アルカディア市ヶ谷（東京）（参加者 74 名）
令 1.6.14	第 33 回総会・懇親会開催/グランドヒル市ヶ谷（東京）（参加者 90 名） 特別講演：國分良成（防衛大学校長） 中国をめぐる内外情勢ー日米中関係を中心に

期別便り

第1期

幹事 磯谷 幸三

1 はじめに

敗戦から75年、86歳10ヶ月となり、お蔭様にて元気

2 日常のこと

体力の衰えを自覚し、無理をしない。出来ないことは諦め、出来ることを楽しむ日常。先ず、身嗜（歯の手入れ、頭髪の手入れ、肌の手入れの後）、お洒落に心懸ける。そして、早朝ウォーキング（約1時間）、家族と仲良く、常に感謝を伝える。十分な睡眠（21時就寝、5時起床）、庭仕事（芝刈、落葉処理）、食事を自分で作る（今後の目標）。

3 おわりに

現実的な「憲法改正」に意欲を示す安倍内閣を支持。

目の前に 西洋楓 秋探し 幸三 （令和元年11月15日 記）

第2期

幹事 中山 隆志

我々2期土木・施設の会は、去る5月13日市ヶ谷にて久々の懇親会を持ちました。全国北海道から福岡に在住の会員28名のうち10名が集まりました。

毎年同窓会に入る若い期が増えていく中、我々としては会の権利と責任において迷惑をかけることは慎まなければならないとの思いを強くする昨今ではありますが、同じ釜の飯を食った仲間として団結の強さは、人生の終末期を迎えている現在、より強く感じるところであります。よって時代に対応していくことの必要を共有しつつ今後やっていきたいと思つたところであります。

第3期 もう一つのラグビーワールドカップ

幹事 長江 光一

9月20日に開幕したラグビーワールドカップ2019のすばらしい熱戦は、日本国中の老若男女を感激の渦に巻き込み、俄かラグビーファンが激増したといひます。

その陰にもう一つのワールドカップ、4年ごとで今回三回目になる国際防衛ラグビー競技会(IDRC2019)が9月9日から23日の間、世界9カ国軍(英国・ジョージア・パプアニューギニア・フランス・ニュージーランド・オーストラリア・トンガ・韓国・フィジー)と自衛隊の10チーム(以下チームを省略)の間で、トーナメントによる試合と敗者による親善試合が、朝霞・習志野及び柏の葉公園総合競技場で戦われました。また台風15号で始まり、17号で締め括られた、印象深い試合でもありました。

自衛隊は、全自衛隊ラグビー大会で現在17連覇中の強豪船岡駐屯地施設科部隊と、習志野空挺団の各有力メンバーを主力とする、愛称デフェンスブロッサムズです。

結果は優勝フィジー軍、準優勝イギリス軍、三位フランス軍で、自衛隊は残念ながら緒戦でフラ

ンス軍に敗れました。親善試合はトンガ軍に勝ち、ニュージーランド軍に敗れました。

しかし、本当に奇妙なことに、全くテレビや新聞等で報道されることはありませんでしたので、ご存じで無い方が多いと思います。私は船岡駐屯地に二回勤務し、所属チームの面倒を見る立場にありながら、今にして思えばそれが十分ではなかったとの強い自責の念を覚えます。償いの意を込めて、IDRC2019 の状況概略をお伝えさせて頂きました。

第 4 期 大いなる精神は静かに忍耐する

幹事 石川 信隆

1960 年 3 月、4 期生の卒業前に林敬三統幕議長が防大で講演された。その時このシラー (ドイツの思想家) の言葉を私が中講堂で読まれた記憶がある。あれから 60 年、自衛隊の任務は大きく変化したが、現在もその精神は生きている。最近、桜林美佐という防衛問題研究家でノンフィクション作家の「日本に自衛隊がいてよかった」、「自衛官の心意気」などを読ませていただいた。自衛隊の素顔を教えてくれる感動的で貴重な本である。これらの本を読みながら、東日本大震災を指揮した故君塚栄治陸幕長 (20 期、第 15 代防大土木会会長) を思い出さざるを得なかった。彼こそ「大いなる精神は静かに忍耐する」を、身を以て実行された偉大なる人物で、その志を自衛隊は今も引き継いでいるのである。

第 5 期 健康寿命が気になる

幹事 山口 忠恵

5 期土木は昭和 36 年卒業時 33 名、年を経てこの令和の時代を迎えた者は 18 名。年齢は平均 81 歳になった。

厚生省資料によると 81 歳の男の余命は 9 年弱となっているので我々の平均寿命は 90 歳前後ということになり結構な長寿だ。

ところが最近はこれとは別に自立生活の可能な年齢を示す健康寿命というものがあって、我々の場合は平均寿命より 8 年ほど低い年齢、すなわち 82 歳前後がそれになっている。

同期生 18 名の状況を見ると、すでに数名が不健康状態に入ってしまった。我々は今健康寿命ぎりぎりの年齢に達しているのだと思うと何やら不安だ。

だが考えてみると、健康寿命とは「暁の上で最期を迎えることのできる」世の中だからこそ生まれた概念であり、平和な時代のしるしといえる。

11 月に同期生会を行うが、今後いつまで開けるか気になる。

第 6 期

幹事 土屋 洋

昨年 4 月 5 日に防衛大学校長からの招待状を戴き十数年ぶりに小原台を訪れました。記念講堂で行われた第 66 期生の入校式へ参列し規律正しい凛とした雰囲気を楽しみました。國分小学校長の式辞で我々の参列の紹介があり、新入生に対し「君達も 60 年後に自衛隊勤務を成し遂げ再び小原台に集まるのです」との一節がありました。この件を新入学生が如何に感じたか私なりに推測しますと、「よし俺も頑張って 60 年後に戻ってくるぞ」とか「そんな先のこと言われても分からないよ」の何れかだったろうと思います。

観閲式見学後、校内を散策していると図書館横の十字路で榎校長の銅像に出会い、品格ある風貌

が懐かしく思い出されました。

あの十字路は我々が課業終了後学生舎へ戻るとき、週番学生に「隊列を組め」とか「私語をするな」と叱られた場所です。今の学生は榎校長に鎮座されていて私語もやりにくかろうと思いました。

寿命を迎えようとする歳で元気に小原台に立てたことをありがたく思っています。

第7期 7期生 HCD2に参加して

幹事 佐野 英良

國分防衛大学校長の発意による第7期生ホーム・カミング・デー2に参加してきました。久振りの防大訪問で、学生隊舎等各種施設の充実ぶりに驚くと共に67期生に接して60年前の自分に逢ったような気持ちになりました。学校長の式辞の中で招待した7期生について「60年前に入校された第7期生の先輩方が、新入生諸君を激励するために、多数参列されています。ご参列の皆様、戦後日本の防人として、我が国の独立と平和と安全に大きな役割を果たされた第7期生の大先輩たちの晴れやかな凱旋に対して盛大な拍手をお願いします。」と紹介されました。盛大な拍手の中、7期生一同は起立して謝意を表しました。

拍手の中「税金泥棒」「憲法違反」「防大生は恥辱」等の障害を乗り越えるために刻苦勉励してきた私達のことを称えてくれる人々がこのように大勢居ることに対して、心から感激しました。

このような行事は一般大学では考えられない事ですので、末永く続くことを願っています。

最後に、この行事を企画・運営された関係者の皆様に感謝申し上げます。

なお、令和元年土木11班会は秋晴れの下12名（金澤在住の千川君怪我のため欠席につき昨年より1名減）で和やかに実施しました。

第8期

幹事 渡邊 正之

令和2年4月には、防衛大学校長ご招待のホームカミングデーⅡに参加させて頂きます。我ら11班の佐藤文彦君が8期生全体の企画担当として準備を進めております。

その他の紹介は例年と同じ恒例行事を続けております。正月明治記念館で行う新年会、月1回の餐食会、年1回の旅行海、年2回のゴルフコンペ他、来年は東京オリンピックの国体応援等々、機会を作っては親睦を固める努力をしております。

毎度の事ですが、事務局の皆様のご苦勞に心から感謝申し上げますとともに全会員の皆様の益々のご健勝を御祈り申し上げます。今回も同年新年会の写真を添えますので、ご覧下さい。



55年前「昭和39年10月10日」紺碧の空に五輪の輪が広がり、東京オリンピックが挙行されました。日本国中が沸いたこの時、各国の入場行進先導役は開催国キャデットが担任で、防大1、2学年から、身長170～180cmでスマートな体型の学生が選抜され、冬制服、夏ズボン姿で開会式に華を添えました。大松監督率いる「東洋の魔女」がソ連との激闘の末、金メダルを獲得した模様は、国民を感動の渦に引き込みましたし、自衛官も重量挙げやレスリングで大活躍しました。今でも脳裏に残るのはマラソンの円谷選手です。彼は、2位で競技場入りし、大声援の中ゴール直前で抜かれましたが、決して後ろを振り返り向きませんでした。陸上競技唯一のメダリストとなった彼は、翌年、一期後輩として久留米に入校して来ました。ラグビー部練習後のトラック入場の際、必ず挨拶する礼儀正しい青年でした。メキシコ五輪を前に自らの命を絶ちましたが、「指導者の道に進んでいたら…」と、来年の五輪の前に無念の気持ちです。

青木 徹彦： 愛知工業大学を定年退官後バイオリンの手習いを始めて10年。

また防大同期のゴルフの会（山上、安藤、山田他）も併せ楽しんでいる。

猪狩 栄勇： 昨年病気で子供を亡くし暫くは落ち込んでいたが、昨今は非常勤ながら元気で仕事を続けている。

石塚 孝： 定期的に通院する病は持っているが、元気に生活している。

井上 敬： 一昨年から友達の仕事を手伝うため、浦和で単身生活している。

今田 正昭： 7年前に妻を亡くしたが、今も非常勤で元気に横浜国際港の会社に勤務中。愛車のハーレーダビッドソンで通勤している。

岩淵 啓： 仕事はしていないが、それなりに夫婦とも元気で過ごしている。

大西 勝： ボランティア活動ではあるが、滋賀県大津市観光協会副会長として活躍している。

岡村 功三： 経験を活かして社会保険労務士事務所を開設し、多忙な日々を過ごしている。

恩田 淳一： 企業の社員に対し、警備にかかわる座学の教師として活躍中。

またテニスは今でも継続楽しんでいる。

仮屋 武彦： 仕事はやめたが元気で趣味の世界にどっぷり。特にカラオケ三昧の日々を楽しんでいる。

白石 博司： 現在偕行社にレファレンス担当として勤務中。また戦史の研究者として、FaceBookで中国専門家として発言している。最近NHKの『ファミリーヒストリー』では、各戦争で活躍された先輩方の証人としてテレビに登場している。（陸自施設職種同期の連絡係として頑張っている。）

高橋紘一郎： 体調不良で療養中。大分回復し杖をついて散歩している。

田村 治郎： 定期的に通院する病を持ってはいるが、それなりの日々を送っている。

徳田 慶郎： 年3回程東京で開催されるカラオケの全国大会出場の為特訓中。（ほぼプロ級の腕前とか）

日高 一昭： 自治体の役員としてボランティア活動に励んでいる。

藤野 善剛： 現在も母校へ柔道の指導に通っている。最近は体力の問題もあり『くちぐるま』が多くなった。

古川 元： 長谷工を退職し、地元のボランティア活動で汗を流している。

松村 義春： 目下麻雀・碁三昧。四国 88 か所のうち 85 番目の札所『志度寺』の近くなので、巡礼の折は乞連絡。

三宅 克穂： 仕事をやめ、夫婦元気で日々過ごしている

宮崎 靖久： 高知で 100 坪程の畑を耕作（家庭菜園）し、夫婦で充実した日々を送っている。

宮津 秀一： 昨年妻を亡くし現在一人暮らし。精神的にもやっと落ち着いてきた。

渡辺 真： 体調を崩し、病院付きの特養に入所している。見舞い歓迎。

遠藤 達： 腰痛とゴルフと仲良く付き合っている。8 年前から『俳画』を趣味に楽しんでいる。

大久保信亜： 仕事も第一線から退き、体調維持の為トレーニングジムに通っている。

長峯 幸道： いくつかの病と仲良く付き合いながら、元気に過ごしている

【不通】 福間 肇・ 安井 博道・

【鬼籍】 池田 稔 (H.27.8.23) ・ 寺村 誠士 (H.30.6.04)

三原 邦夫 (H.26.5.24) ・ 村上 久雄 (H.28.5.09)

松尾 敬一 (H.28.4.04) ・ 増田 靖夫

松本 義弘： 民生委員児童委員（7 年目）の傍ら、非常勤で防衛施設建設に携わっている。また 10 期担当幹事として丁度 20 年。今後も白石君の支援と同期生の協力を得て、幹事を続けたいと思っている。

第 11 期

幹事 岡村 壽久

11 期土木の皆様お元気でしょうか。今年は平成から令和に年号も変わり新たなスタートの年となりましたが、地震、台風・大雨等による甚大な被害が発生し、自然の猛威を再認識される年にもなりました。千葉・茨城在住の同期生が被害に遭ったようです。また今年は 11 期生のほとんどが後期高齢者の仲間入り、一部を除いて年金生活で悠々自適の毎日と推測しています。私ごとですが、朝早くから、ペットの散歩（犬ではなく、猫です）、畑を借り野菜作り、さらに健康のため、1 日 1 万歩を目標に歩きの毎日です。皆さんも健康に留意され、百歳を目標にもう少し長生きしてください。尚、残念なことに本年は林田大義君が病のため召天されました。これで 11 期 31 名の内 3 名が不帰の客となりました。ご冥福を祈ります。同期生の集いは年も年ですので、もう全員集会は無理と思います。今のまま各地区で同期生会を実施、懇親を深めていただきたいと思います。

第 13 期 一本の電話

幹事 末包 昭彦

毎年 10 月になると土木会名簿の記載内容の確認・修正作業の依頼がありました。今年は「今年度以降、29 期以前については名簿の確認・修正は 5 月のみとなったため今回はありません。」という趣旨の文書が来ました。正直に言ってほっとしました。本年 4 月に勤務先の高松大学において、突然の経営学部長拝命という事件（？）が起きたため、これまでの業務に加えて、学部全般の業務を

行うという事態に陥りました。おかげで対応に追われる毎日が続いていたのです。しかし考えてみると、これまでは毎年、一人一人の同期生と、電話で近況を確かめ合っていたのです。声の状態でも体調も分かりました。確認しなくて良いとなると、一瞬ホッとしましたが、同時に心の片隅に穴が開いたような寂しさも感じていました。電話には多くの情報が入っています。メールでは得られない電話の重みを改めて感じた一時でした。

第 14 期 学生時代の思い出

幹事 渡邊 元旦

私たち防大土木 14 期は、1970 年（昭和 45 年）3 月に卒業してまもなく 50 年になります。古希も過ぎ、それぞれの地域で、あるいはゴルフなどの趣味を通じてお互いに無事を確かめ合っているこの頃です。

最近では学生時代を懐かしく思い出しますが、その一つに“優秀な学生”に、他の学生が大枚 300 円を出し合ってお祝いする儀式がありました。単位を落とすことなく、かつ最も低い飛行に成功したものに、当時の土木 11 班は 30 名（だったと思います）でしたから、合計 1 万円もの大金を贈ったわけです。本人曰く、「いやー、苦労しましたわ」。皆大笑いしましたが、それから気が付けば 50 年が経ちました。

人生 100 年時代が来るようですが、良い思い出を作りつつ楽しんでいきたいと思います。

第 15 期 多摩川氾濫雑感

幹事 岩本 賢一

最近の国内外の自然災害が、従前に比して特異重大化の傾向にある。私の住む大田区でも過日の台風により、多摩川の水位が堤防下 1～3m に達し、一部では氾濫が起きた。あと少しで、越水等の大災害が生じる場所であった。治水や地震対策等々、従前のコンセプトでは、将来、対応出来なくなるであろう。我々の自然災害に対する意識改革、多額の予算や膨大な労力等が求められている。

改めて多摩川流域の地図を取り出し、目で追うと、過去、暴れ川であったことが分かる。右岸と左岸に別れている地名、以前堤防があったことを示す地名や先祖が洪水や水被害への警鐘を鳴らしている地名等々、枚挙に暇がない。特異重大な自然災害にどう対応していくか。昔、土木工学の授業で、河川工学、水理学、土質工学、橋梁工学等の先生方の話が、思い浮かびます。

第 16 期 第 16 期 皆さんへ

幹事 青波 健

お元気ですか？今年の 5 月 1 日に皇太子徳仁親王が第 126 代天皇に即位され、元号が令和となりました。10 月 22 日には即位礼正殿の義が執り行われました。当日は朝から雨模様でしたが式典が始まるころ空が晴れ、虹がくっきりと浮き上がったとの報道がありました。祝賀御列の儀は台風 19 号で被害を受けた方たちを思い、延期されました。儀式の 11 月 10 日は朝から雲一つなく、皇居から赤坂御所まで約 4.6 Km をオープンカーなど 46 台の車列が時速 10 Km で執り行われました。その沿道は祝意を表す人たちが埋め尽くされました。同期の大半が令和元年には古希を迎えることとなります。お互い良い老後を迎えたいものですね。来年は東京オリンピックです。前回中学校 3 年の時テレビで見ました。令和の時代も平和で明るい時代であることを願います。なお今回の台風等で被災された方にお悔やみとお舞いを申し上げます。

第 17 期生の皆さん、大方ご健勝のことと推察しております。

令和の幕開けとともに 70 歳の節目を迎え、新たな決意で日々精進している人も多いと思います。また、悲しみや失望の中にある友もいるかもしれませんが、早く光明や希望が再来することを願っています。

当方は、少しばかりの農地の中で、夏の熱い日差しや雑草やらと格闘しながら小作農民としてまあまあ元気に過ごしています。野菜の若葉を食む昆虫などを殺戮しながら、「善く生きるとはどのようなことなのか？」などと今更に考えながら土と戯れています。何か新しい変化や話題があれば連絡ください。（受け身のお願いですみません。）北海道は早くも積雪と聞いていますが、各地冬に向かいます。ご自愛を！

現役諸官の一層のご活躍と令和の時代が自衛隊にとって新しい時代になるよう切に願っております。

我々も 70 歳に近い年齢になりましたが、お元気ですか。私自身、今年「古希」の年齢になりました。古希とは、元々は「古希」と書き、中国唐代の詩人・杜甫の曲江詩の中の「人生七十古来稀なり」の一節によるもの、と言われていています。また、古希は数え年で 70 歳を迎える年（＝満 69 歳）とのことです。

現在の日本人の平均寿命は 80 歳を超え、100 歳も夢ではありません。しかし、統計では健康寿命は 70 歳代前半とのことです。即ち、医療等の進歩により生きているが、「不健康な状態」で長生きしていることとなります。老後は、健康で充実した人生をとっていますが、災害・不測事故等もあり、前途多難な状況が予想されます。私としては、自分を信じて天の命ずるままに一瞬一瞬一杯生きようと思っています。皆様のご健勝を御祈念申し上げます。

佐久間君が昨年 7 月に逝去されました。あの頑張り屋だった佐久間君も病魔には打ち勝つことができませんでした。心からご冥福をお祈りいたします。

これからの共通した関心は「健康の維持」だと思います。

先日、部隊の行事に参加して 104 歳になる旧軍を経験した陸自 OB のスピーチに接しました。伝えたい思いの多さからスピーチは長かったのですが、終わった後の拍手はしばらく鳴りやみませんでした。先輩の矍鑠とした姿に感動し、自分も「健康でありたい」と思った次第です。

最近、私は健康維持のため初めてのピアノに取り組んでいます。ピアノは左手を動かすのでボケ防止につながることを期待し、弾ける曲ができると楽しくなります。

再会を楽しみに、健康を維持したいと思っています。

第 20 期 ホームカミングデーに参加して

幹事 西村 智聡

本年 3 月 17 日、平成 30 年度防大卒業式に際し、第 20 期生ホームカミングデー行事が実施され、同期生及び同伴者等 207 名、土木工学専攻の同期もご夫人と合わせて 14 名が参加致しました。前日の懇親会には國分学校長はじめ主要役職の方々をお迎えし、各自旧交を温めるとともに、最新の防大の状況等も伺うことができ、極めて有意義な会でありました。翌日は絶好の晴天の下、慰霊碑献花、記念撮影、卒業式典出席・モニター視聴、観閲行進見学、学生隊舎研修等、つつがなく、終わることができました。特に、卒業式典において國分学校長及び安倍総理大臣から我々 20 期生のエピソードの紹介と労いのお言葉を頂き、一同、心から感動致しました。

事前準備から当日の受入れ作業等、関係職員の方々に多大のご支援を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

第 21 期

幹事 小野 博

来春 2 月 22 日は第 21 期卒業生ホームカミングデーです。前日の 3 月 21 日の夜には懇親会が「よこすか平安閣」で開催されます。久しぶりに同期の皆様と時間を忘れて、また楽しい一時を過ごしたいものです。3 月、多くの方々がまた横須賀に来られることを期待しています。

その際、何かご要望等ありましたら、ご連絡下さい。

第 22 期 同期土木会の開催について

幹事 厚芝 清

2015 年 12 月に開催した「還暦祭」以来ご無沙汰していますが、来年度 2020 年には 5 年ぶりの再会を期して同期召集を目論みたいと考えています。テーマは、大変革している最近の極東アジア情勢下における国家防衛のあり方に始まり、今後の人生を如何に楽しみながら意義ある物にしていくかの方法論そして世代交代の進捗状況など多岐にわたる論点をもって、結論の出ないまま、大いに語りあいたいと思います。

なお、招集に際しましては、遠方の方々の都合を優先しご希望に沿いたいと思いますので、何卒ご意見提供の方、よろしくお願ひします。

第 23 期

北里 憲生

今年は久留米の幹部候補生学校で、23 期のホームビジットがありました。40 年ぶりのくらいに再会した昔の紅顔の美少年も誰だかわからなくなっている人もおり、また 2 次会は土木出身の集まりで、昔を思い出しては懐かしい限りでした。

九州熊本にいるせいか、九州管内の同期（23 期土木は福岡を中心に 5 名在）・クラブ活動の先輩後輩の集い・隊友会・中学高校の同窓会・職場の懇親会等々の他、こちらは環境もよく、終末は晴耕雨読とゴルフで、仕事とともに相変わらず忙しく過ごしています。

ただ話題は、50 歳代は新職場や子供の就職、結婚、防衛問題等だったのが、60 歳代になると、孫の話や自身の健康、親の介護の話等が変わってきました。先日九州管内の防大時代のクラブの集いで、1 桁台期別の先輩が死んだとか相続問題が変わってきていると話されていました。ただ、たまに

同期に電話すると皆、前向きに元気に過ごしているようで元気をもらいます。(23期土木26名は皆、健在)

今回、防衛副校長の香月君からの期別便りの執筆の命を受けました。電話では2年後のホームビジットで、23期の体力検定をやると張り切っていました。また鍛えとかなければと思う今日この頃です。

第24期 令和時代を迎えて

幹事 森 茂

同期の皆さん、お元気にお過ごしでしょうか。

私は昨年の24期土木会は都合が合わず残念ながら参加できませんでした。皆さんの近況も伺えることもできませんでした。引き続き本年も同期生名簿確認の窓口をさせていただいております。今年は、約200年ぶりとなる平成天皇の生前退位に伴う皇位継承が行われ、年号が変わる節目の年となりました。新天皇即位に伴う一連の儀式は、我が国の歴史の重さについて改めて思い致させられました。また、新しい時代の幕開けを感じさせる華やかなものでした。今年の24期土木会は田邊揮司良君が幹事となっておりますが、13名の参加者で明るい未来を夢見て楽しい語らいができればと思っております。

第25期 全国からの参加で同期会大盛況！

幹事 大内 元

今年も引き続き幹事として皆さんと連絡できる機会を得ました。御協力ありがとうございました。今年は、東京都内を中心として続けてきた同期会を全国規模でとの目標を立て、年明けから富井君を幹事として調整してきた結果、10/26(土)東京大江戸温泉物語において、15名の参加で大盛況でした。北海道から、遊佐君、阿部君、宮城から原君、九州から田代君、海外(?)から関井君、徳島から篠原君、関東地区から富井君、飯塚君、小比賀君、高橋君、高見沢君、川上君、函子君、河野君、大内のメンバーで久しぶりに語り合えました。今後とも、この人間関係を大切にしていきたいと思しますので、懇親会の提案など、企画要望がありましたら、遠慮なく連絡して下さい。

また、来年、お話しできることを楽しみにしております。

第27期 年 男

幹事 大西 延昌

2020年は、オリンピックの年であり、そして私は年男になります。定年60歳の私にとって、最後の現役時代を過ごします。年をとった気持ちがないのですが、夜、電車の窓に映った白髪とシワだらけの自分の顔を見るとき、具合が悪く医者から年だからといわれたとき、年をとったことを強く認識させられていました。19年の秋、この気持ちを跳ね返すつもりで、テントを担ぎ南アルプスの縦走をしました。職務上、約十数年、すぐに対応できない場所にいけなかった私にとって、久々のテント泊の登山であり、重たい荷物を担ぎ三千メートルの稜線まで登れるだろうか、岩場を無事に歩けるだろうかと心配がありましたが、やってみたら、楽勝でした。まだまだ、気力体力は衰えていないと自信をもった今日この頃です。この期にとって土木会名簿は、同期の絆をつなぐ大切なものとなっています。精力的に名簿整備に励んでいきたいと思っております。

ちなみに、留守の処置はしたのですが、登山中、携帯が圏外であり、精神的に不安が続いていました。

昭和 59 年 (1984 年) 3 月に卒業して、早いもので 36 年近くになりました。卒業時、要員別では陸上 24 名、海上 2 名、航空 3 名、留学生 (シンガポール共和国、陸) 1 名でした。土木同期で現役自衛官は令和元年 8 月で全ていなくなりましたが、これまでに訓練中の事故で若くして殉職した生山君をはじめ、残念ながら陸上要員 3 名が物故しており、あらためてご冥福をお祈りします。まだまだ悠々自適とはいけそうにありませんが、プラス思考で仕事 (必要とされること) があり、働ける (動ける) うちが華と思うこのごろです。さて、来る 2019 年 11 月 23 日 (土)、学生舎生活 (特に 1 学年) で思い出多い勤労感謝の日に同期会を計画しています。今後も機会を捉え計画したいと思いますので、今回都合の悪い方は是非次回ご参加下さい。皆様のご健康を祈念します。

海自施設幹部として 10 年前、ディブチ共和国でソマリア沖海賊対処行動のための活動拠点整備事前調整、帰国して赴任した機動施設隊 (八戸) では一冬明けての東日本大震災の被災・災害派遣等、コペルニクスの転回クラスの貴重な諸体験をさせていただきました。防災・減災の間を繋ぐ『応災力 (ハード・ソフト)』を個人レベルで向上させることが肝要と痛感し、体験・実験・自己検証ベースの防災講話を依頼されることが多くなりました。『究極の国防』を目的に現役時代に体験してきたあらゆることは、定年退官を以て終わり!ではなく、実は退官後にも形を変えて継続・推進するための基盤作り段階だったのではないかな?、五十にして天命 (私には被災地の復旧復興に?がる防災・応災・減災コンセプトの醸成・普及?) を知るとはこのような気づきなのかな?と感ずる今日この頃です。

私自身、昨年、自衛隊を卒業いたしました。地方の自治体で日々、馴れない仕事に四苦八苦しています。ただ、気の持ちよう、まわりと協調しつつ、少しでも良いものをと努力している途中です。

さて、今回、名簿を整理していますと、現役の自衛官として頑張っている同期は、残りわずかとなりました。12月1日には、更に少なくなっていることでしょう。少ないと言うことは、逆に言うとうと、30期土木の人たちの防大を通じて培った能力を次のステージで生かしてもらえているということでもあります。

今般、退職された人たちは、何かと大変だと思いますが、まずは、初心を忘れず、頑張ってください。時には、同期で集まり、一杯やりましょう。そのためにも、同期同士の連絡網は大切です。今年は、同期のネットワークを築きたいと思います。皆様、宜しくお祈りいたします。

31 期 9 班も、来年中には数名を残し定年を迎えることとなった。まだまだ若い気でいたが、来年

の名簿修正の頃には私も定年になっている。自衛官は転勤が多いため、昔は名簿を修正するために、一人一人に電話を掛けなければならず、かなり苦勞した。しかし今は、メールを活用しているので、楽になった一方で、一人一人と話をする機会が減ってしまい少し寂しい気もする。

自衛官時代は、同期がいろいろな部署にいて助かったことが多かったが、今後は皆が新たな仕事に就くことになり、同期のネットワークが今以上に役立つ時が来るかもしれない。人生百年時代とすればまだ40年以上ある。皆色々なことがあるだろうが、同期の絆を大切にしながら、それぞれが新たな環境で活躍することを祈っている。

第32期 第32期 期報告

幹事 藤原 修

幹事より：名簿確認中、皆の元気な声を聞けました。今回も2名の方の「今の声」を皆にお届けします。

【近況報告】竹井 弘文

32期の皆さん、ご無沙汰しています。私たち32期は、昭和63年に防大卒業以来、31年の年月が経ちました。我々は昭和の終わりに卒業し、平成の31年間を自衛官または、民間企業人として働いてきましたが、そろそろ、自衛官の方は、定年を迎える時期で、第二の人生の準備または始まっている人もいますかと思えます。この間、それぞれの人生を送ってきたと思えます。私も平凡な自衛官生活を送ってまいりましたが、2020年夏に第二の人生をスタートさせます。不安ですが、それなりに一生懸命頑張りたいと思えます。平成からの令和と新時代に入る時期に新たなスタートできることは何かを感じさせられる今日この頃です。

追伸：平岡君、西川君、片山君、鈴木君は元気かな？卒業以来会えていないので、退官したら会ってみたいです・・・

【近況報告】西川 富士男

万感の思いで退官される方も多いこのタイミングに、違う道に進んだ自分でも良いのかと自問しながら一筆啓上。記憶は35年前のままです。目立たない人を人気者にする天才竹井君、爽やかな天本君、努力家の三浦君、ちょっと怖い小林君、一步先をいく小暮君...。今も災害派遣のニュースでは、皆の姿を探しています。負けられないという思いで頑張ってきました。私は、東京・神戸で働き、今は地元の福岡で介護施設の施設長をしています。思わぬ着地点です。自衛隊でさらに先に進む方もいるでしょう。こちら、まだまだ前へ進みます。

9班万歳！

第33期

幹事 濱平 信一

33期土木会の皆さん、如何お過ごしでしょうか？今年是我々が平成元年卒業して30年が経過し、平成31年2月26日には明治記念館で33期の期生会として卒業30周年記念の懇親会が開かれました。土木会からは9名（陸7名、海2名）が参加しました。遠くは小坂君が札幌から多久君が大阪から参加してくれ大いに盛り上がりました。川辺君は直前に倒れ参加出来ませんでしたが、大病の

手術を終わったばかりなのに学生時代と変わらず病室から笑いのネタを提供してくれました。

奇しくも卒業 30 周年に新年号となり令和の時代が始まりました。自衛官からは定年を迎える者も出始めますが、人生 100 年時代に突入し、まだまだやることは沢山あります。

皆さん健康には十分気をつけて今後も走り続けましょう。今回会えなかった皆さんとの再会も楽しみにしています。

第 35 期 近況報告

幹事 金子 操

皆さん、お元気でしょうか。今回は令和元年に事務局に連絡をとっていない方を対象に名簿確認を行いました。

今年は、千葉県だけでなく福島県、宮城県、岩手県でも台風被害がありました。現在、仙台で勤務しているため、東北地方を主に記載していますが、9 班の皆様におかれましても、御家族ともども元気に過ごされることを祈念しています。

第 36 期 昭和～平成～令和・・・

幹事 大西 健史

36 期の名簿確認の際、皆さんの元気な声を聞かせていただき、変わりなくご勤務されていることを確認しました。

36 期は、昭和最後の防大入校学生として自衛官への道を進み、激動？の平成を乗り越え、新しい元号「令和」を迎えました。定年までに両手に収まる年齢になりました。

この間、カンボジアを初めとした国際貢献・平和維持活動等の海外勤務や東日本大震災に伴う大規模な災害派遣等の活動に多くの方が従事されたことと思います。

残りわずかとなった自衛隊での勤務、悔いがないようお互い頑張りましょう。定年後のエンジョイライフ？（住宅ローンが・・・）、令和の次の元号に向けて。（2018 年の日本人男性の平均寿命：81.25 歳）

第 38 期

渡會 悟芝

38 期土木の皆さん、お久しぶりです。渡會です。今回、黒木君からのご氏名で、投稿することとなりました。

現在僕は、妻一人、犬一匹の平穏な生活を送っています。仕事は国土交通省や自治体が管理する、ダム・河川の水門や、トンネルの維持管理をしています。土木だけではなく、機械の仕事です。形が残る仕事ではありませんが、設備が滞りなく稼働出来るように、日々保守しています。

また、震災や水害時に、国交省が所有する排水ポンプ車や照明車等を被災地に運び、運用することもあります。現地で活動する部隊の人と会うこともあります。最近特に多くなりました。

退官後は、年賀状と毎年の黒木君からの定期連絡くらい（伊藤君とは、春日井駐屯地勤務時に一度飲みましたね）ですが、異動の連絡を受ける度、皆さんの活躍に感心している限りです。

いつかお会い出来ることを楽しみに、また、皆さんの活躍を期待しています。

土木工学出身の第 40 期生の皆様いかがお過ごしでしょうか？防大での教育終え 25 年目を迎える昨今、防衛省自衛隊を取り巻く環境だけでなく自らの環境も日々変化していると思います。

部隊の長・組織の長として自衛隊の精強化に直接貢献する者、幕僚・スタッフとしてそれを支える者、また、外部から自衛隊を応援する者といろいろな立場に立っているものと思います。

それぞれの立場において責任が増してきますが、困った時・物事がうまく進まないときにはいつでも相談し合いましょう。いろいろな経歴をくぐってきた同期です。官民・陸海空・職種が違うからこそ解決の糸口がつかめるはずです。

防大で同じ釜の飯を食った仲ですので同期として今後とも連絡を取り合える関係で行きましょう。

41 期の皆さん、お元気でしょうか。最近、自衛隊を退職した他学科の同期と食事を共にし、その生活ぶりを伺う機会を得ました。自衛隊在職時とは大きく異なる生活をしている同期の、変化を楽しんでいる様に驚きを覚えたものです。

我々の生活には、事の大小はあれ、少なからず変化があることと思います。年を経ると変化を避け、現状維持を選びがちですが、「変化を楽しむ」遊ぶ心をこれからも持ちたいものです。一方、どうしても、楽しくないと捉えることができない「変化」もあることと思います。そのときは、近くの人と共有しましょう。それでも楽しく捉えられないときは、同期で共有しませんか。きっとみんな「我が事」の様に考えるでしょう。

42 期土木卒の皆様、お元気ですか？それぞれ各幕、部隊、機関、民間企業等で活躍されていることと思います。私は現在の職務上、米陸軍の将来コンセプトに触れる機会が多いですが、米陸軍は将来の脅威に勝利するため、新たに「統合軍の中の一部としての陸軍コンセプト」を作成し、日々変化に挑戦し続けています。この取組みこそが世界最強と言われる米軍の強みであり、各軍種独特の文化の壁を乗り越え新たな価値を構築し先導しています。翻って、我々も防大卒業後 20 年以上が経ち、組織の中核で勤務していますが、米軍の変化を恐れない姿勢や勇気は我々の業務の参考になるのではないかと考えています。私は 2020 年 6 月末に帰国しますが、私の米国赴任間、作田君が 3 年間期幹事代行を務めてくれました。この場を借りて深くお礼申し上げます。帰国後、再度私が幹事業務を行います。引続き名簿更新等の際にはご協力をよろしくお願いいたします。

43 期の皆さん、ご無沙汰しています。ついに我々の期も防大卒業 20 周年を迎え、11 月 17 日の防大開校祭に合わせて 43 期のホームビジットデイが開催されました。お互い歳はとりましたが、20 年という長い月日は感じられず、防大土木のままの感覚であり、同期の絆にいささかの変化はありま

せんでした。

さて、我々43期にとって、次の10年が本当の勝負ではないでしょうか。それぞれ軍種も任地も役職のみならず、職業も異なる方もおりますが、防大土木で学んだ精神はどこでも通用するものだと思います。

43期の同期みなさん、新しい令和の時代、更に活躍できるようがんばりましょう。

第44期 卒業後20年を目前にして

幹事 坊原 尚記

44期の皆さん久しぶりです。

今年3月に、久々の部隊に戻ってきました。西方については、防警上の任務に直結する厳しい訓練を実施しており、第一線の厳しさを感じています。

さて、年々月日が過ぎるのが、早く感じる様になり、気付けば定年まで折り返しを過ぎてしまいました。卒業してから20年を振り返りますと、その時その時は一生懸命で、「時が経つのは遅いな。」と感じたこともありましたが、あっという間だったと痛感しています。

また、40歳を過ぎると、身体の体調も変化してきているのを実感します。定年後も元気に過ごせる様、皆さんも身体に気をつけて、それぞれの与えられた役割を全うできる様頑張りましょう。

第45期 期幹事より

幹事 辻 一

孔子が晩年に振り返った言葉として、「論語・為政」によれば「四十にして惑わず」というフレーズがあります。昨年までに45期の皆さんが迎えたその歳ですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

私事を述べれば、「惑わず」と自信を持って口外できるような生き方ではありませんが、「惑わず」と言えるような人間力を目標に日々精進し、「五十にして天命を知る」ことができるようにしたいものです。

皆さんの今後益々のご発展とご家族共々のご多幸を祈念しております。

第47期 補給部門の統合化について思うところ

萩原 真

皆様いかがお過ごしでしょうか。私は、現在補給本部において副会計監査官の職に励んでおります。会計監査の主たる業務の1つとして、過去の調達や今後の調達において予算が有効かつ適切に使用されているかの確認があります。この業務を実施する中で、システム器材の借上、維持管理業務など、海上自衛隊だけでなく、陸上自衛隊や航空自衛隊でも行っている事業内容を確認することがあります。その際、各自衛隊の事業内容が横並びとなっているか、違うならばそれは妥当性のある理由から生じたものなのかを確認しなければいけませんし、必要に応じて陸上自衛隊や航空自衛隊の担当者から直接話を伺うこととなりますが、こういう場面において、各自衛隊の文化の違いを防衛大学校の学校生活を通して実際に見聞きしていた経験が生きているのだと感じています。自衛隊生活も折り返しというところですが、各々の場所での活躍を祈念して結びとさせていただきます。

同期のみんな、いつも名簿作成への協力等ありがとうございます。毎年みんなと連絡を取り、それぞれの正面で頑張っていることを聞き大変励みになっています。今年の 8 月から市ヶ谷で勤務することになり、土木以外の同期とも業務調整をしたり、駐屯地内でばったり会ったりすることが多くあります。また、同期だけでなく防大時代にお世話になった先輩が相変わらず頼もしい先輩だったり、頼りなかった後輩が見違えるほど頼もしく見えたりと、様々な発見をする今日この頃です。一方で、土木同期で集まる機会を作れていないのが現状で、期幹事として反省しているところです。関東近辺にいる人も多くなってきたので、今年は近況等話しができる場を設定したいと思っています。ぜひまた集まりましょう。

先輩、同期、後輩の皆様、如何にお過ごしでしょうか。土木会 54 期幹事の高村です。これまであまり土木出身の方々と出会う機会がなく、在学中の思い出を忘却しそうになっておりました。しかし、現在 64CGS に入校しており土木出身の先輩、同期、後輩と共に目黒の地で公私にわたって交流し、有意義な毎日を送っております。そこでやはり感じることは、土木会の期別便りのほとんどの期別が執筆しているに同じく、土木出身者の個性と癖はどの学科にまして強く、一方で団結力はものすごいものがあるということです。今でもその土木出身者はオーラで分かり、目黒の地でも先輩の従二さんは相変わらずの有様で遊びにふけており、同期の中瀬古は相変わらず何を言っているのか分からない状況です。やはり、土木の先輩、同期、後輩は過去も今も、そしてこれからの将来も最高であり続けるでしょう。心残りと言え、災害の多い日本において土木という学科の意義はますます高まっていると肌で感じており、もう少し真面目に勉強すればよかったと後悔しております。今後ともよろしくお祈りします。

我々第 55 期が卒業してから約 9 年の時が経ちました。先日、勤続 10 年の防衛記念章をいただきました。「ついに赤いきつね（記念章）をもらう時期なのか、時が経つのは早いものだ」と感じる今日この頃であります。この間まで初級幹部として日々右往左往して上司から温かい（時に激熱な）ご指導をいただいた頃が少し懐かしいです。我々第 55 期土木会は、（陸自目線ですが）CGS 学生、司令部幕僚、連隊運用訓練幹部、指導官（区隊長等）等大規模部隊の中核を担う存在にまで成長することができました。これも土木会各諸先輩を始めとする上司、同期、後輩の皆様方の普段からの変わらぬご指導・ご鞭撻の証左であります。

第 55 期を代表する幹事として何か特別な仕事をしているわけではありませんが、会報を定期的に読ませていただくと土木会の諸先輩の偉業・規模に未だに驚いております。それと同時に我々も名誉ある土木会の一員として恥ずかしくない自衛官人生を送らなければならないと身の引き締まる思いです。引き続き土木会の一員であるとの自覚を胸に今後の自衛官人生を全うして参ります。

お久しぶりです。皆さん、お元気ですか？

早いもので卒業して6年の月日が経ち、部隊勤務が防大で過ごした時間を超えてしまいました。しかし、皆さんと過ごした建設環境工学科での日々は今でも私の心の支えとなっております。

機会があれば集まって飲みに行きたいですね。またお会いしましょう！

日々仕事や私事を漫然と行い生活をしている。やるべきことがある程度明確だからだ。その隙間の時間は趣味やレジャーに充て、こちらもやりたいことがはっきりしているのであまり考えていない。そのため年末や年度の区切りが近づくともう一年たったのかと驚くことになる。光陰矢の如しと言われるがどのように過ごしても時間が経つのは早い。しかしながら生活は日に日に便利になり、何とはなしに寿命は長いのではないかという気がしている。あわただしい日々をせめて有意義に過ごし、まだまだ長い人生を組み立てていくために少しずつ過去を振り返り、先を見据えて生活するようになっていきたい。そういう時期に差し掛かってきたのではないかと思う。

「出席番号1番から1年ごとに換えるから和泉で！」って皆言ってたけど、今年も60期幹事を務めさせていただきます和泉です。

最近宴会について思ったことがある。自分にとって宴会のメリットは気分が良くなれば、一步踏み込んだ話ができ、自身や職場を改善するための情報が得られることがある。デメリットは、説教を受けたり、言い合いになって溝ができることがあることである。でもこれらは捉え方次第だと思う。説教をするということはそれだけストレスが溜まっているのだろう。普段から聞いてあげるか親身になって受け止めるか最悪作り笑いでひたすらうなずけばよいと思う。言い合いになって、溝ができるということはこれまで陰口を叩いて本音を語ってこなかったツケだと思うし、その溝が埋まれば、これまで以上に強い絆になると思う。下らない持論失礼しました。

結論自分は宴会が好きで、機会があれば土木会（宴会）を企画するので、来年こそはやりましょう。

みなさんお久しぶりです。いかがお過ごしでしょうか。全国津々浦々、それぞれの立場、持場で大いに活躍されていることと思います。防大を卒業してからさほど時間は経ちませんが、演習や災害派遣、思い切って空に飛び出してみたりと個人的には多くの経験をさせてもらっています。

さて気温も下がり段々と冬も近づいてきましたが、富士へ移動する途中でレインボーブリッジを通過する度に「また橋桁の設計をやりたいな」、「久しぶりに土木のみんなに会いたいな」と思う今日この頃であります。北は北海道、南は東ティモール（日本で言えば沖縄）まで散らばっていますが、幹事の私は日本の首都からすぐの船橋にいます。そろそろのも。「ヤンパ」のハングリースで。それでは今後ともよろしく願います。

62 期の皆さん元気になっていますか？Siri に推薦され、幹事となったあの日を懐かしく感じています。私は航空化のため、他職種よりも BOC を一足先に終え、部隊で 1 月からの入校に備えて勤務しています。

皆さんも BOC 等の入校や部隊勤務、一般企業で慌しく過ごしているのでしょうか。まだ始まったばかりで忙しいとは思いますが、折れることなく前向きに頑張ってください！

これから第 62 期土木会を企画していこうと考えているので、全国各地から参加してくれることを願っています。

精強！土木！建設環境工学科！！

63 期の皆さん、こんにちは。我らの心の古里である防衛大学校、5 号館を卒業してから 1 年も経ちませんが、防大土木民はそれぞれの道で倨促と頑張っているであろうと思います。私の OCS の区隊長も土木育ちであったため卒業前の卒研の忙しさについてお話する機会があり、意外なところで繋がりを示せる土木民の縁に不思議な絆のようなものを感じます。あの 5 号館で過ごした日々が過去にそして今に人を通じて繋がっていると思うと私は貴重な時間を過ごしていたのだとしみじみ感じます。これは今いるそれぞれの環境においても同じことと思います。そう思うと何年後かに 63 期土木民で集合したいですね。その時は、パレード前のあのかけ声を皆さんでやりたいですね。それでは皆さん各々の地で頑張ってください。それと今後ともよろしくお願ひします。

ワッショイ 63 期！！

防衛施設庁(当時)の技官研修生として約 3 ヶ月間防衛大学校土木工学科に身を置き、これをきっかけに歴史ある防大土木会に名を連ねさせて頂くこと既に 20 余年。1 年に 1 回の総会には可能な限り参加し、そこにおける同窓生の方々や教室の先生方とのご縁を通じ、業務上では防衛省・自衛隊における業務の円滑化に資することが多く、また生涯の友人を得ることが出来、大変有り難く、防衛大学校は第二の母校とっております。

一時は諸般の事情でこの研修制度が取り止めになり、防衛大学校と施設庁との関係が疎遠になった時期もありました。しかしながら防衛施設を取り巻く技術的課題への取り組み上、極めて有益な研修制度であるとの必然性から、教室側のご尽力もあり再開することが出来、現在に至っています。

今後も、ここで得られた人間関係を大切にしつつ、ここに名を連ねる後輩たちが同様の思いを出来るよう、担当理事としてできることをしてまいりたいと思います。

研究科幹事 研究科出身者の皆さんへ

幹事 山根 茂樹

こんにちは、お久しぶりです。そして、初めまして！研究科 35 期の山根です。私は現在、防衛装備庁プロジェクト管理部装備技術官（陸上担当）として省、陸上自衛隊の装備の研究開発に従事し、少しでも我が国の安全保障環境構築のため、隊員の役に立つための思いで業務に邁進しております。

現在は陸自の技術系幹部として研究開発がメインフィールドですが、職種は施設であり、若い時の部内工事、阪神淡路大震災等の数々の災害派遣及び東ティモールでの国際貢献活動、3 年半前には第 12 施設群長兼ねて岩見沢駐屯地司令でしたので各種演習場整備の場で防大土木として培った知識・技能をいかに発揮させていただきました。また多くの軍種を超えた先輩・後輩にも巡り会え、人生の財産として感謝しております。

最後になりますが、本年度以降、従来のハガキによる毎年の土木会（総会・講演会・懇親会）の参加確認及び名簿確認作業は無く、幹事による確認・修正にすると聞いております。よって幹事の経費的・体力的負担が大き過ぎるため、メールアドレスでの確認作業に移行したいと思います。管理作業のためのメールアドレスのリスト化のご協力をよろしく申し上げます。

決算報告

平成30年度および令和元年度防衛大学校土木会総会におきまして、平成29年度および平成30年度の決算報告がなされ下記のとおり承認されました。

1. 平成 29 年度

収入内訳		支出内訳	
終身会費	330,000 円	通信連絡費	188,552 円
寄付金	11,000 円	会報作成・発送費	375,889 円
簡易名簿代	16,000 円	名簿更新費	61,000 円
		名簿役務費	30,000 円
		事務消耗品	22,172 円
		表彰品	11,340 円
		総会費用	81,417 円
収入小計	357,000 円	支出小計	770,370 円
平成 28 年度から繰越	3,139,454 円	平成 30 年度へ繰越	2,726,084 円
合計	3,496,454 円	合計	3,496,454 円

2. 平成 30 年度

収入内訳		支出内訳	
終身会費	300,000 円	通信連絡費	220,509 円
寄付金	100,000 円	名簿更新費	62,000 円
		名簿役務費	30,000 円
		事務消耗品	12,006 円
		表彰品	12,566 円
		総会費用	66,687 円
収入小計	400,000 円	支出小計	770,370 円
平成 29 年度から繰越	2,726,084 円	平成 31 年度へ繰越	2,722,316 円
合計	3,126,084 円	合計	3,126,084 円

防衛大学校土木会会則

昭和 61 年 12 月 6 日制定

昭和 63 年 12 月 2 日改正

平成 25 年 12 月 13 日改正

令和 元年 6 月 14 日改正

第 1 章 総則

(名称)

第 1 条 本会を、防衛大学校土木会と称する。

(事務局)

第 2 条 事務局は、防衛大学校建設環境工学科内におく。

第 2 章 目的および事業

(目的)

第 3 条 本会は、会員相互の親睦を深め会員の社会的活動の向上を図ることを目的とする。

(事業および活動)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業および活動を行う。

- 1 会員相互の親睦に関する事業
- 2 会員名簿の管理
- 3 その他前条の目的を達成するため必要と認める事業

第 3 章 会員

(種別)

第 5 条 本会の会員は、次の 2 種類とする。

1 正会員 防衛大学校建設環境工学科（旧土木工学専攻、本科、研究科）卒業生
および在
学生研修生、土木工学教室の現旧教職員

2 賛助会員 入会を希望し役員会で承認された者

(会費の納入義務)

第 6 条 会員は、別に定める会費を支払うものとする。

第 4 章 役員

(種別)

第 7 条 本会に、次の役員を置く。

- 1 会長
- 2 副会長
- 3 理事
- 4 会計監事
- 5 期生会等幹事

(員数および選任方法)

第8条 前条の役員は、次の方法で選任する。

- 1 会長 正会員の中から総会で1名を選任する。
- 2 副会長 正会員の中から総会で2名を選任する。
- 3 理事 正会員の中から会長が若干名を指名する。
- 4 会計監事 正会員の中から総会で1名を選任する。
- 5 期生会等幹事 期生会等から各1名を会長が指名する。

(職務)

第9条 役員の仕事は次の通り定める。

- 1 会長は、本会を代表して会務を統轄し、会の業務の運営に任ずる。
- 2 副会長は、会長を補佐して会の運営にあたり、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 3 理事は、会長、副会長を補佐して会の業務の運営に当たる。
- 4 会計監事は、全会員に代わり会の財務を随時監査し、総会において監査報告を行なう。
- 5 期生会等幹事は、各期生会等の代表として本会との連絡にあたり、期生会員等の移動に関して年1回(8月末)事務局に報告するとともに、必要に応じて会長の諮問に応える。

(任期)

- 第10条 会長、副会長、理事、会計監事の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 2 期生会等の幹事の任期は2年とし、再任および重任を妨げない。

第5章 役員会

(構成)

- 第11条 役員会は、会長、副会長、理事をもって構成する。
- 2 会計監事は役員会に出席することができる。

(議決)

第12条 役員会の議決は、役員の過半数をもってこれを決するものとする。

(開催)

第13条 役員会は、原則として年1回開催する。

(権能)

第14条 役員会は、会則改正、予算および決算、会費に関する事項ならび事務局に検討を命ずべき事項を議決する。

第6章 事務局

(構成)

第15条 事務局長は、会長が防衛大学校教職員である会員の中から選任する。

2 事務局員は、事務局長が会員の中から指名する。

(権能)

第16条 事務局は、会長の命を受け次の事務を行う。

- 1 会員名簿の作成
- 2 総会開催に関する事項
- 3 会計業務に関する事項
- 4 役員会から検討を命ぜられた事項
- 5 その他会長から命ぜられた事項

第7章 総会

(開催)

第17条 総会は、原則として年1回開催するものとし、会長が招集する。

2 総会の議長は、会長がこれにあたる。

(承認事項)

第18条 次の事項は、これを総会に提出しその承認を受けるものとする。

- (1) 会則の改正
 - (2) 会費に関する事項
 - (3) 予算および決算
 - (4) 事業計画および報告
- 2 1項の承認は、総会出席者の過半数をもってこれを決する。
- 3 役員会から総会までの間、必要に応じ暫定予算および暫定事業計画を設ける。

第8章 会計

(経費)

第19条 本会の経費は、会費および寄付金その他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

付則：1 本会則は、昭和63年12月2日から施行する。

2 会費は、終身会費制とし、その額を10,000円とする。

役員等名簿 (令和元年度 12月現在)

役員

会 長	山崎 幸二 (27期)					
副 会 長	岸川 公彦 (28期)			日比野 忠史 (28期)		
会計監事	正寶 太朗 (58期)					
理 事	黒田 一郎 (教官)		長合 友造 (27期)			
	山根 茂樹 (研究科 35期)		深和 岳人 (技官)			
	別府 万寿博 (36期)					
期幹事	1期	磯谷 幸三	23期	香月 智	45期	辻 一
	2期	中山 隆志	24期	森 茂	46期	桜 良太
	3期	長江 光一	25期	大内 元	47期	大久保 一徳
	4期	石川 信隆	26期	辻本 雅洋	48期	日高健太郎
	5期	山口 忠憲	27期	大西 延昌	49期	鷺原 敦
	6期	土屋 洋	28期	林 恭之	50期	山内 哲也
	7期	佐野 英良	29期	星川 辰雄	51期	矢野 貴之
	8期	渡邊 正之	30期	米津 浩幸	52期	小谷 稔
	9期	久 義重	31期	伊藤 一雄	53期	岩橋 宏樹
	10期	松本 義弘	32期	藤原 修	54期	高村 真史
	11期	岡村 壽久	33期	濱平 信一	55期	澤田 京介
	12期	中村 弘	34期	松井 正伸	56期	藤本 健輔
	13期	末包 昭彦	35期	金子 操	57期	小原 史稔
	14期	渡邊 元旦	36期	大西 健史	58期	永松 秀章
	15期	岩本 賢一	37期	松澤 吉広	59期	嶋川 理
	16期	青波 健	38期	黒木 勇人	60期	和泉 雄也
	17期	市川 菊代	39期	黒沼 孝治	61期	福井 智大
	18期	小山 悟	40期	藤田 宗徳	62期	渡邊 武蔵
	19期	長峰 克己	41期	下山 一貴	63期	泉野目 熙
	20期	西村 智聡	42期	白石 博文		
	21期	小野 博	43期	天内 明弘		
	22期	厚芝 清	44期	坊原 尚記		

事務局

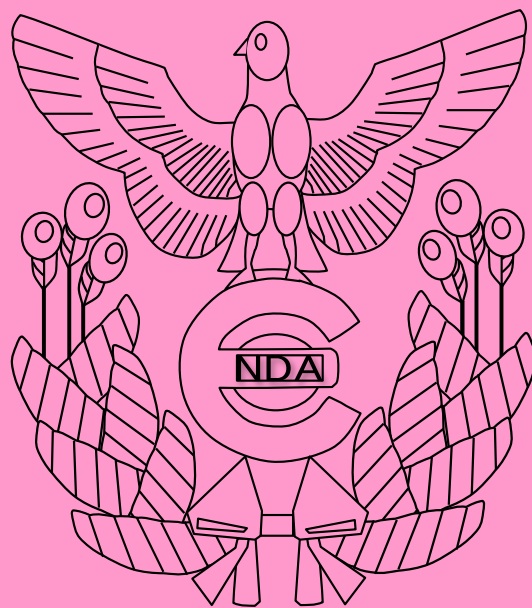
事務局長	市野 宏嘉 (46期)					
企画幹事	堀口 俊行 (50期)					
渉 外	小松 喜治 (研究科 (後) 19期)					
会 計	濱田 匠李 (研究科 (後) 19期)					
事務局員	水落 信恵 (事務)		片岡 新之介 (56期)			
	佐藤 匡浩 (58期)		嶋川 理 (59期)		松村 健太郎 (59期)	
	江口 友規 (研究科 (前) 58期)		神崎 達也 (60期)			
	清田 翔吾 (60期)		福本 一真 (60期)			

《 編集後記 》

- 防衛大学校土木会会報第 17 号を発行いたします。期別便りをお寄せくださった方々、会員名簿記載内容の修正へのご助力をいただきました期幹事をはじめ会員の皆様に深く感謝申し上げます。
- 本年度から会の運営資金が乏しくなっている事情もございまして、土木会会報の発行を、冊子の印刷からホームページ上での掲載に変更させていただきました。何かお気づきの点がありましたら土木会事務局までご一報ください。

(編集子)

事務局長	市野	宏嘉
企画幹事	堀口	俊行
渉外	小松	喜治
会計	濱田	匠李
事務	水落	信恵



Civil Engineering